

Think & Act against “Corona” ~ブライダル業界は“コロナ”にどう向き合うか?~

三密を避けて参加人数は一人と両親でゲストはオンラインで参加



フェアリー・テイル
代表取締役 ブライダルプロデューサー
藤田 徳子氏

【Profile】1972年生まれ
130年以上続いた老舗劇場の経営者の家に生まれる。子ども時分の勉強部屋は、映画館のスクリーンの裏にあった。「他人様には非日常感という楽しみを提供する」ことを旨として育つが、子どもの頃は、劇場経営という特殊な家業が嫌だった。大学に進学後、体育会チアリーディング部を創部、初代キャプテン。大学卒業後は、広告代理店に勤務。自身の結婚の折、当時のブライダル業界に疑問を感じ、1998年起業。アートの島「直島」、「史跡高松城跡」、「栗林公園」などで、すべて「史上初」結婚式をプロデュースした。Good Wedding Award 2012 全国準グランプリ受賞、第3回女性起業家大賞奨励賞受賞...などを受賞。近年は、「働き方改革」に積極的に取り組み、「ワーク・ライフ・バランス推進企業表彰」香川県知事賞(第1位)を受賞。



ZOOMを使ったオンライン結婚式には最高齢は93歳の祖父も参加

香川県初のオンライン結婚式を実施

—5月3日に香川県で初のオンライン結婚式を行われたそうですね。

藤田 史跡高松城跡 玉藻公園披露宴で行いました。新郎新婦は香川県在住で、最初は挙式と披露宴を予定していましたが、緊急事態宣言を受け県外からのゲストが参加できなくなるなどの影響があり、どうするか迷っていましたが、新郎新婦や家族の都合で今のタイミングではないと結婚式が挙げられないということから、三密を避け写真撮影と披露宴大書院の窓や扉を開放した中で神前式挙式を新郎新婦とその両親だけの少人数で行いゲストへは、挙式の模様をオンラインで配信するスタイルを提案し、実施することになりました。

—初のオンライン結婚式で色々苦労した点なども多かったと思います。

藤田 そうですね。まず問題は新郎新婦が20代でオンラインなどについてある程度親和性があると思っていたのですが、職業柄オンラインツールを使って業務することも少なく、スマホも友人とLINEをするくらいだったため、オンラインでZOOMを使って配信するということが最初のハードルになりました。

そして、本人たちに説明し理解してもらったものの、その先のゲストにどう説明するかという壁に苦しみました。結果としてこちらで事前周知文をつくり、それをLINEでもメールでもいいので共有してもらいました。

また、最近業界のニュースなどでは、オンライン結婚式の話題も見ていましたが、どれも結婚式場で行っていることなので、Wi-Fi環境もツールも整っています。ところが、私達が行ったのは、高松城の玉藻公園でオフィスでもなければ結婚式場でもないため、Wi-Fi環境にかなり苦戦したのと、その中でZOOMがどう動くかという動作確認に、時間がかかりました。観光地であるためフリーWi-Fiはもともと飛んでいるのですが、使用時間に制限があったり、そもそも電波が弱かったりしたため、色々と検証した結果4Gの回線を使い配信することになりました。



三密を避け、オンラインで結婚式の模様を配信

—事前周知ではどのような内容をアナウンスされたのですか？

藤田 内容は、オンラインとはどういうものか、当日配信に使うZOOMはどういうアプリで、接続はどういう風にすればいいのか。また当日準備しておいてほしいものはなにかなどということです。ZOOMについてもインターネットで調べればわかることですが、案外その内容は高度なものも多く、オンラインで参列するゲストには高齢者やITツールに不慣れな方も多いとうかがっていたため、今回必要となるベーシックな内容にまとめ理解してもらいやすいようにしました。

また、事前に準備してほしいものとして、本来の挙式であれば固めの杯などでご神酒を用意しますが、オンラインでゲストにそこまでは出来ないため、ビールでもソフトドリンクでもいいので事前に用意しておいてほしいということをお伝えしました。

—当日の配信は上手くいったのですか。

藤田 はい、問題なく行えました。当日画面を介してですが、新郎新婦とゲストがつながり、ゲストから「おるおる」という歓声が聞こえてきました。新郎新婦は想像がつかないと不安を感じていたなかで、私達も悪戦苦闘しながら、言葉でいくらお伝えしても伝わらなかったオンラインへの抵抗感が払拭され、やはりリアルタイムの配信の力はすごいと実感しました。

参加したゲストの最高齢は93歳になる祖父で、自分の孫娘が、画面を通じて言葉をやり取りすることにびっくりしながらも嬉しそうにしている姿に、私もこれまでの苦労が報われうれしくなりました。

お祖父さんは両親と同居しているため、事前にiPadに設定してもらい、時間になったらボタンを押すだけという状態にしてもらいました。そして、結婚式には参列できない兄弟にサポートしてもらい、接続しました。兄弟と一緒にのものとすると使いにくくなるため、お祖父さんはiPad、ほかの兄弟はご自身のスマホやパソコンから接

続してもらいました。

—リアルでは繋がれなくても、いい経験になったでしょうね。オンライン結婚式ということで、プログラムなどで工夫された点はありますか？

藤田 神前式を行いました。通常は拝礼などもその場にいらっしゃいますので、「親族代表玉串拝礼です。ご親族の方へご起立ください」と一言言えば皆さんご起立いただけますが、ZOOMの配信では私が、声を改めてかけたり、作法や儀式的説明をするなどのフォローをしていました。

そして、事前に案内していた固めの杯では、皆さんがそれぞれご用意してもらったものを画面の前で杯を傾けてもらうようにアナウンスしたりしていきました。親族集合の写真や全員集合のスナップ撮影も、ZOOMをギャラリー形式で設定し、新郎新婦が手元にパソコンを持って写真撮影を行うなど行い、一体感が出るようにしていきました。

あとは引出物も、その場ではお渡しできないので、事前に用意してい

たものを宅配で送らせてもらうなどしました。

—素晴らしい結婚式になりましたね。今の状況ではこうしたスタイルの結婚式も提案していく必要があるのでしょうか。

藤田 これからは、結婚式のありようも変わると思います。結婚式とはなんぞやというのを見つめなおす機会になっていると思います。最終的にいい結婚式というのは、どんなパフォーマンス、おしゃれな装飾、高価な引き出物、珍しい演出ではなく、二人が結婚したいという想いがちゃんと表現されていて、見ている人に伝わっていることだと思います。いままでは業界側があまり伝える努力をせずに、演出あるいは装飾的なものなど上辺のものでオリジナリティと言ってきました。しかしこれからはより本質が問われる時代がきたのだと思います。私もコロナ前から信念として持っていました。ようやくそれがそういう時代がきたような気がしています。

オンライン結婚式の事前告知

オンライン結婚式にご参列の皆様へ

このたびはおめでとうございます！
一矢さん&真純さんの結婚式プロデュースをしています、株式会社フェアリー・テイルの藤田と申します。
今回、新型コロナウイルス感染拡大防止を受けて、ご両家様・新郎新婦様が、ご出席者の皆様の安全確保のために、出席者の方々の結婚式現地へのご参列をお控えいただくことにしました。
そこで、弊社としましては、出席がかなわないご親族やご友人の皆様にも同じ時間を共有できるよう「オンライン結婚式」を実施させていただこうと思います。

【オンライン結婚式への参列方法】

1. パソコンやスマートフォンなど、カメラ付きの機器をご用意ください。
2. 事前に「ZOOM」という、オンライン用のアプリをインストールしてください。
インストールURLはコチラ↓
<https://zoom.us/jp-jp/meetings.html>
3. 一矢さん&真純さんのオンライン結婚式は、こちらのURLです。
()
4. 5月3日(日) 10:30になったら、このURLをクリックしていただきますと一矢さん&真純さんの結婚式の様子をご確認いただくことができます。
5. ZOOMは、インターネットに接続して、使用できます。
パソコンやスマートフォンの、インターネット環境(きちんと接続できているか?)を確認しておいてください。

【神前結婚式について】

神前結婚式の中で、「親族固めの盃」があります。
本来は、神酒(神棚にお供えたお酒)を飲み、親族の絆を誓うものですが、今回は、それぞれ、お手元に乾杯の飲み物(なんでも構いません)をご準備ください。ビールでも、コーラでも、お茶でも、なんでもいいです!!
盃がなければ、ペットボトルでも構いません。

以上、オンライン結婚式にご参列される皆様へ、ご協力のお願いです。
ステキな結婚式になるように、スタッフ一同、心を込めてお手伝いします。

オンライン結婚式で準備しておいて欲しいもの、ZOOMとはなにか接続方法などがわかるように事前にゲストへ案内を送った